

被災×社会的弱者 ～最も被災しやすく、最も避難しにくいひとびと～

被災×障がい児・者×復興 被災地から見た課題—障がい児・者歯科医療の現状と今後—
河瀬聡一郎（石巻市立雄勝歯科診療所所長） 神奈川歯科大学附属横浜クリニック 平成27年3月1日

被災×社会的弱者 ～最も被災しやすく、最も避難しにくいひとびと～

被災×障がい児・者×復興

被災地から見た課題—障がい児・者歯科医療の現状と今後—

河瀬聡一郎（石巻市立雄勝歯科診療所所長）

日時：平成27年3月1日（日）10:00～11:30

会場：神奈川歯科大学附属横浜クリニック 7F大会議室

講演要旨：

2011年3月11日の東日本大震災にて、東北沿岸部は津波による大きな被害を受けた。当時私は、松本歯科大学の障害者歯科講座に在籍していた。

災害時の歯科の役割は、身元確認と歯科支援活動とがある。宮城県では、発災当初より地元歯科医師会や東北大学による歯科支援活動が行われていた。宮城県においては2011年3月25日に厚生労働省、日本歯科医師会を経由し、都道府県の歯科医師会、各歯科大学に応援依頼がまわった。その依頼に対して松本歯科大学でも3月29日に支援活動隊を結成し被災地における支援にあたることとなった。

4月24日歯科器材の他、ヘルメットや簡易用トイレ、食料を車に積み込み宮城県へ出発した。

松本歯科大学は、1回あたり1～2週間のクールで約1ヶ月～1ヶ月半ごとに計5回支援活動をおこなった。健常者以外に、障がい児・者や要介護高齢者も対象とした。松本歯科大学からの支援活動が終了した後も、障がい児・者や要介護高齢者が気になり、個人的に1か月に1回、2011年12月まで支援に通っていた。

気仙沼市の沿岸部や南三陸町などの被災状況は壊滅的で、歯科医院も被災し診療ができた状況ではなかった。「私は戦争を体験していないが、戦後はきっとこういう状況だったのだろう」と思った。

当時の気仙沼市・南三陸町では1万人以上が避難所生活をしていましたが、避難所は様々で、多いところでは600～700人が生活する大規模な避難所もあれば、数人という避難所もあった。

水は貴重なものなので、歯みがきや入れ歯の清掃ができずに清潔が保てていない人が多かった。食品の偏りなどもあり、口内炎なども多く認めた。また1日2食しか支給されない避難所も多く、1か月以上も炭水化物が主で、野菜やたんぱく質が欠けている状況であった。

被災×社会的弱者 ～最も被災しやすく、最も避難しにくいひとびと～

被災×障がい児・者×復興 被災地から見た課題ー障がい児・者歯科医療の現状と今後ー

河瀬聡一郎（石巻市立雄勝歯科診療所所長）神奈川歯科大学附属横浜クリニック 平成27年3月1日

障がい児・者は、感染への抵抗力が低下しており全身に影響を及ぼしやすい。よって本来であれば、最優先に支援すべき対象と思われる。しかし現状は相反するものであった。まず、避難所に障がい児・者がいなかった。地方行政に確認をとっても彼らを把握できていなかった。さらに、支援を健常者以上に必要とし、多くの人が1カ所で生活している障害者施設や高齢者施設に関してのリストは無かった。そこで、現地で施設の所在地についての聞き取り調査の他、宮城県保健福祉部障害福祉課から被災地にある障害者施設の一覧を取り寄せ、それぞれに歯科支援の必要性を確認した。結果7カ所から支援の要望があった。

通院していた歯科医院が被災したことにより、他の歯科医院に障がい児・者を連れて行っても車いすが入れない、障がい児・者の診察は難しいからと断られる、等がありどこに障害児・者を歯科通院させるべきか困惑した状況となっていた。

障がい児・者の口腔内は、十分な口腔ケアがなされていない状況に加え、歯科治療の中断や急性症状が放置されていた。

まず全員に歯科検診をし、口腔ケアの他、必要に応じて継続的な歯科処置をした。

また障がい児・者リストがないので、歯ブラシなどの支援物資も入っていなかったのも、配って回った。

在宅で生活していた障がい児・者が避難所で生活ができないこともあった。理由として一部の避難所では差別、偏見を受けていた（奇声をあげてしまうので、こないでくれと言われた）と内閣府の会議でもまとめられている。よって車中や、被災した家屋、親せき宅で生活している人が多かった。

次の災害の時には、社会的弱者を災害弱者にしないということが、重要だと思われる。

そのためには教育の中に障がい児・者の知識を深めるカリキュラムを取り入れるべきだと思う。自分が障害者歯科を専攻しようと思ったきっかけは、自分の通った中学校・高校には、クラスに必ず2人の障がい児・者がいて、彼らの生活しにくさを共有していたからだと思う。



大人になり初めて障がい児・者を見る場面が来ると、冷たいまなざしで見えたりする。障がい児・者も分かっていなさそうで、ちゃんとわかっている。意識がなさそうで

被災×社会的弱者 ～最も被災しやすく、最も避難しにくいひとびと～

被災×障がい児・者×復興 被災地から見た課題—障がい児・者歯科医療の現状と今後—
河瀬聡一郎（石巻市立雄勝歯科診療所所長）神奈川歯科大学附属横浜クリニック 平成27年3月1日

も、喜んだり、怒ったりなどの反応もある。教育の過程に、障がい者を入れて行くことが、差別にもつながらないことになるのではないかと思っている。

他にも、日頃から市町村で社会的弱者の情報を把握し、災害時の情報コントロールをしていく必要がある。歯科だけではなく、関係機関の横のつながりをもって、障がい児・者を診ていく必要がある。

宮城県神経難病医療連携センターでは、「私の災害時対応ハンドブック」というものがつくられている。このハンドブックは難病の方以外に障がい児・者などでも使える。1人1人に合ったハンドブックにするため家族をはじめ、多職種で作り上げていく。障害の種類、服用薬、緊急連絡先等々が書かれ、災害時にどのように避難するかをフローチャートでまとめたものである。

実際の例をあげると、「私の災害時対応ハンドブック」を持っていた重症心身障がい児は、震災直後、搬送先はどこで、その次はどこということが決められており、人工呼吸器の電源がなくなると無く命が繋がった。

宮城県神経難病医療連携センターのHPでダウンロードできるので、それぞれの地域でこういうものを参考に整備していただけたらいいと思う。



被災地で何かのお役に立ちたいと思い、2012年4月に石巻雄勝に赴任し、6月4日に雄勝歯科診療所の所長となった。

<雄勝町の雄勝総合支所からの津波の動画>

雄勝町は、4300人の人口が、1300人になった。住民票がある人数が1300人で、実際にいるのは1000人を切っているといわれている。小中学校も被災して子供も減っている。また雇用がないので若い人達は町を離れている。残されたのは高齢者だけである。高齢化率は50%を超えた限界集落となっている。

医療機関は全て被災しなくなった。石巻市立雄勝病院に関しては、屋上まで津波に襲われ、患者、医療従事者がほぼ全滅となった。歯科事業所は、雄勝病院と開業歯科医院であったが、雄勝病院の先生はお亡くなりになり、開業医の先生は雄勝での再建は難しいとのことで、石巻市中心部で再開している。

現在の石巻市雄勝歯科診療所は、歯科医師1名、歯科衛生士1名、歯科助手2名、研修の歯科衛生士1名が勤務している。

全身疾患を持つような患者にはモニタリング下歯科治療を行なう。移動困難者へは訪問

被災×社会的弱者 ～最も被災しやすく、最も避難しにくいひとびと～

被災×障がい児・者×復興 被災地から見えた課題—障がい児・者歯科医療の現状と今後—
河瀬聡一郎（石巻市立雄勝歯科診療所所長）神奈川歯科大学附属横浜クリニック 平成27年3月1日

歯科診療で対応をしている。また摂食・嚥下障害患者には内視鏡を用いた評価やリハビリをおこなっている。さらに歯科協力が得られない障害児・者へは笑気吸入鎮静法下歯科治療や静脈麻酔下歯科治療なども行っている。そのため、診療所はバリアフリーにしている。

緊急時の備えとしては、医科の診療所は目の前にあるが、救急搬送も40分以上かかる。そこで、気管挿管セットや緊急薬などもそろえている。

現在当診療所で歯科的管理をしている障がい児・者は27名いる。その多くは石巻市中心部から約片道1時間をかけて来てくれているが、中には東松島市、南三陸町、大崎市といった方面より片道1時間半以上をかけてきてくれる人もいる。

過去の歯科治療を聞いたところ、仙台の大学病院が約3分の1、近医が約3分の1で、3分の1は歯科治療をしたことがないという人であった。ちなみに仙台までは車で約2時間かかる。

先ほども説明した様に雄勝町は、石巻の中心部への救急搬送でも40分以上かかり、冬は雪、夏は台風で通行止めになってしまうこともある。決して障がい児・者の治療するのに適当な場所ではない。

2014年6月30日時点で石巻市の人口は150,334人で宮城県内でも仙台に次ぐ第2の都市である。療育手帳Aの保持者が540名、Bの保持者が579名いる。そこで石巻中心部に障がい児・者歯科を専門的に診られる高次歯科医療機関があるべきだと思う。

実際2012年5月には石巻市でも障害児・者を診られる特殊歯科設置を求める嘆願書を、宮城県石巻支援学校父母教師会が取りまとめ、9027人の署名と共に関係機関に提出された。

現在、定期的に関係機関と話し合いをもち、石巻中心部で障がい児・者を診られる歯科診療所をつくる話し合いをしている。

私は診療以外にお祭りなどもやっている。生まれ育った大好きな雄勝から子ども達は出て行かざるを得ない環境となってしまった。そこで雄勝町に帰ってくる機会をつくりたく、赴任して以来毎年夏に祭りを開催している。内容としては子供が楽しめる内容を多く取り入れている。

また、野原となってしまった被災地を少しでも明るくしたいと思い、鯉のぼりを毎年あげている。

夜になると診療所周辺は真っ暗になるので、クリスマスシーズンだけでも明るくしたいと思い、診療所を取り巻くイルミネーションをつけている。

その他にも、被災地に来てくださる方を案内したりしている。

さらに男性介護者に向けて行う「男の介護教室」を、2ヶ所で定期的に行っている。現在全体の3割が男性介護者であるといわれている。食事に関しては、1日3度の食事作りから食事介助まで多くの時間と負担を余儀なくされる。家事、育児の経験が少ない男性はそ

被災×社会的弱者 ～最も被災しやすく、最も避難しにくいひとびと～

被災×障がい児・者×復興 被災地から見た課題ー障がい児・者歯科医療の現状と今後ー

河瀬聡一郎（石巻市立雄勝歯科診療所所長）神奈川歯科大学附属横浜クリニック 平成27年3月1日

れらがストレスとなる。更に男性は他人に相談することを控え、ストレスを自分で抱え込んでしまう傾向がある。それにより要介護者へのドメスティックバイオレンス（DV）や、殺人を起こしてしまうこともある。

そこで介護のストレスを少しでも軽減してもらいたい、同じ境遇にある男性同士が集まる機会を作りたいと思い、男の介護料理教室から始めた。以降、熱中症対策法、褥瘡予防法、口腔のケア法、口腔のリハビリ法、窒息の介助法、認知症の予防法、等を多職種と連携を取りながら進めている。

あれからもう4年、まだ4年。

被災者の心はまだ癒えないまま、先の見えない不安を抱えている。仮設住宅もいろいろあるが、収納もなく、狭い中を暮している。アルコール依存やDV、育児放棄、孤独死などの問題もまだまだある。

さらに交通手段が完全ではなく、人口は流出し、治安も悪くなっている。工事関係者も多く、昔とはだいぶ違う状況になっている。昨年末には停泊中の船のバッテリーが全て盗まれるという事件もあった。震災前には考えられないことだったそうだ。

被災地からの声としては、大災害を風化させてほしくないと思う。未だに行方不明の方もいらっしゃる。まだ沢山の方が狭い仮設住宅で先の見えない中暮らしている。

お時間があるときに被災地に来て、見て、聞いて、感じてほしい。そしてそれを沢山の人に伝えて、今後も被災地を、そして被災者を、一緒に考えて欲しい。

主催：神奈川歯科大学大学院 横須賀・湘南地域災害医療歯科学センター

共催：女川歯科保健チーム，SMILE WITH YOU Project，Community Dental Service，歯科保健研究会

協力：石巻重症障害児(者)を守る会，石巻支援学校スクールボランティア，一般社団法人りぶらす，

旭寿会ケアサポートセンター，災害時公衆衛生歯科機能を考える会，(株)コムネット

被災×社会的弱者 ～最も被災しやすく、最も避難しにくいひとびと～

被災×障がい児・者×復興 被災地から見た課題ー障がい児・者歯科医療の現状と今後ー

河瀬聡一郎（石巻市立雄勝歯科診療所所長） 神奈川歯科大学附属横浜クリニック 平成27年3月1日

質疑：



Q： 県歯科医師会役員） 本県では南海トラフ地震を想定して備えている。社会的弱者の把握はどのような方法でしているのか、地域包括ケアシステムも始まったばかりなのだが、歯科が関わりにくい現状がある。

A： 子どもに関しては支援学校が多く情報を持っている。大人に関しては行政の障がい福祉課になると思う。今後、災害時の情報開示、情報共有を進めて行く必要があると考える。

地域包括ケアシステムについては、歯科がどんどん出ていく必要があると思う。我々ができることをもっとアピールすべきだと思う。

Q： 大学教授） 障害歯科学会に所属している。障がい者などの災害弱者が、どこで歯科の治療が受けられるのかという情報提供は、特に人口減少地域での取り組みなどはなされているのか。

A： 全国的なこと、また、障害者歯科学会での取り組みについては、把握していない。石巻市においては、障がい者は公的機関で診ていこうという方針で市立病院などを整備していくことになっており、そこから災害時に情報発信ができるように取り組んでいる。

Q： 障がい者と健常者の違いは避難所ではわかりにくい。その人が災害弱者であるという情報は得られるのか。

A： 避難所では医療チームのミーティングがあり、情報を共有している。また、ハートバッチというものがある。これは障がい児・者であることがわかるようなバッチであり、宮城県内では支援学校が中心となり普及させつつある。

Q： 松本歯科大学から雄勝へ移ったその大きな決断の理由は？

A： 千年一度の大災害だと言われている。その災害があった時に生を受けていた者として何かしたいと思った。

Q： 歯科衛生士） 障がい児・者歯科支援においては人手が必要と思われるが、どのように確保していけば良いか。

A： 障がい児・者への対応経験者がないと難しい。日本障害者障歯科学会が統括したり、障がい児・者歯科を専門に診る歯科大学病院などが関わっていくことが必要。

Q： 地区歯科医師会役員） 歯科医師会では行政と災害について話し合っている。

被災×社会的弱者 ～最も被災しやすく、最も避難しにくいひとびと～

被災×障がい児・者×復興 被災地から見た課題—障がい児・者歯科医療の現状と今後—
河瀬聡一郎（石巻市立雄勝歯科診療所所長）神奈川歯科大学附属横浜クリニック 平成27年3月1日

歯科医師は災害時「身元確認」と「口腔ケア」とおっしゃったが、もっと早い急性期のフェーズで対応すべき外傷に関して、私たちにできることはあるのか。話し合いの中では、できることは身元確認とせいぜいトリアージということだが、他にもできることはあるのか。

A：中久木） 阪神淡路大震災の時と比べると、今はDMATがあり、はるかに早く動いている。生命維持に関わる場合は、DMATが対応してくれる。生きてさえいれば、口の中の怪我は後からでもいくらでも治せる。対して、施設での口腔ケアの継続は、環境が悪くなることで亡くなる方もいることから、最優先ともなる。

Q：地区歯科医師会役員） 最初に派遣され、気仙沼、南三陸と巡回での口腔ケアをした。神戸出身だが、阪神淡路の時には何もしなかった。遠くから行って見たものの、厳しかったと言う実感がある。避難所を回ったが、現地の人との大きなギャップがあり、1週間で何とかコミュニケーションを取れるようになったという程度。実際は、歯科衛生用品を配り、話しをただけ。このチームは第7次までであったと思うが、その後どうなったのか。

今は牡鹿半島に行っている。人口が4300人から1000人以下になっているというのでは、雄勝を再興させるのは難しいのではないかと。

A： 全国からの歯科支援というところから、ある程度の時期には地域に返さないといけないと思う。支援のゴールをどこにするかが難しい。支援で無料で治療をしてもらうに越したことがないが、地域で生活している人の仕事を奪ってしまう可能性もある。地域にどの時点で返すのか、そのタイミングを見定めることが必要。

通院環境が整わないハンディのある様な人では、支えが不要になるまで診ていく必要があったが、歩ける人は地元の歯科に行ってもらった。

雄勝は石巻市の端の端で、支援が入るのも最後となった。雄勝歯科診療所は、仮設のプレハブであり、来年には診療所を新設し、小学校や保育園も新設される予定である。しかし雄勝に戻りたいという希望者は1%しかいない。というのも避難した被災者たちは石巻市の中心部で過ごしていて、避難先の方が暮らしやすくなっている。あえて雄勝に戻る意味はどこに？何か魅力的なものがあれば・・・正直難しい。

中久木） 国としては、都道府県の災害医療コーディネーターを中心に、地域で調整するように計画しており、歯科としてもその時々フェーズに合わせた必要な支援を届けられるようにしていきたい。

地区により見た目は同じようでも、行政区の違いにより復興のスピードがぜんぜん違うことがある。

ぜひ雄勝にも足を運んでください。「今」の雄勝を見て、そばにいて感じることも大切。次の災害に備え・・・。